

地域や自己の未来を拓く 特設教科「拓」 ～夢を叶える通り道～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
鳥取市立 湖南学園	湖南学園学校運営協議会 平成30年9月 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 1名 1名	湖南学園地域学校協働本部

取組の背景及び目標や目指す姿

背景
 本学園は、吉岡温泉という歴史ある温泉地を有する田園地帯に位置する小規模校である。児童生徒は素直で穏やかで何事にも真面目に取り組む良さがあるが、即興的な自己表現が苦手な主体的な行動が弱いという課題がある。湖南地区の歴史・自然・文化・産業・人々について探究的に学習する特設教科「拓(ひろく)」を核としたカリキュラム・マネジメントを行い、地域と連携・協働した探究学習に取り組むことで、自分で主体的に考え行動し、地域を愛し地域に貢献する児童生徒の育成をめざしている。

目標や目指す姿(学校)
 心身を鍛え 智を磨き ふるさとへの誇りと
 高い志をもつ子の育成

目標や目指す姿(地域)
 「地域に根ざした学園づくり」
 ～学園は地域を元気に、地域は子どもを豊かに～

湖南学園学校運営協議会の特徴

- 委員の立場や属性等**
- 地域学校協働活動推進員
 - 保護者・PTA関係者
 - 公民館関係者
 - 自治会関係者
 - まちづくり協議会関係者
 - 大学教員
 - 保育園長
 - 学園教職員
- など、計 **14** 名で構成
 年間平均 **3** 回程度開催

効果的な運営の工夫

年3回定期開催される学校運営協議会の事前に、会長、副会長、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)、学園管理職による作業部会(準備会)を行い、運営協議会の内容を吟味している。また、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)を中心として学校と公民館が連携を取り合い、学校での学習の様子や進捗状況を情報共有するとともに、地域の声をタイムリーに聞き取り、学校や地域学校協働活動の取組の改善に反映させている。

特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会	地域学校協働活動
<p>学校運営協議会において、教職員と協働指導者(地域住民)が、特設教科「拓(ひろく)」の目標や学習内容等を共通理解することの重要性を協議し、学習の方針や目標を定めた。学校運営協議会において、協議された方針や目標に基づき、教職員と協働指導者(地域住民)が参加する学校運営協議会研修会を行い、特設教科「拓」について、学習の具体的な進め方や目標の共有を図った。</p>  <p>学校運営協議会研修会</p>	<p>特設教科「拓(ひろく)」学習の実現に向けて学園・公民館・PTA・地域からの依頼事の交渉や学習ボランティア、協働指導者等の交渉を行っている。協働指導者(地域住民)は、生徒たちが、特設教科「拓」での探究学習の成果発表として企画・運営する「こなんギューツとマーケット(R3)」 「湖南地区宣伝活動(R4)」の企画段階から生徒との話し合いに参加し、商品開発やPR/パンフレット等についての助言や作製の指導等を行い、開催に協力している。</p>  <p>こなんギューツとマーケット</p>

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校運営協議会委員の複数名が地域学校協働本部を兼務しており、運営協議会終了後に引き続き地域学校協働本部の会を毎回開催している。そこで、運営協議会において協議された内容を具現化すべく、協働指導者の人選や新たな人材の発掘、地域への情報発信の方法等を検討し、学校と地域とが連携した学びとなるよう努めている。また、特設教科「拓」の学習内容等について、教職員と協働指導者(地域住民)が語り合う「湖南学園運営協議会研修会」や、生徒と協働指導者(地域住民)との「意見交換会」を開催し、学校・地域・児童生徒の交流を促進・深化させている。

成果・効果

<成果指標>
 【令和4年度12月児童生徒アンケートより】
 ○学校が楽しい…96% ○みんなで何かをするのは楽しい…98% ○人の役に立ってうれしかったことがある…98%
 【令和4年度12月保護者アンケートより】
 ○お子様は、地域や地域の人に、感謝の気持ちや愛着を感じている…76%
 ○学園、保護者同士、地域と連携して、子育てをしている…88%
 <成果・効果> ※令和3年度学校運営協議会協議報告より
 ・学校のねらっていること、何がしたいか、ねらい、目的がわかりやすくなり、目的が達成しやすくなった。
 ・地域としても学校のことが分かるようになってきて動きやすくなり、より良い形で協働活動につながれる。
 ・以前は、公民館と学園の意識のずれや距離があったが、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)を中心として学校と公民館が連携を取り合い、お互いの情報を共有でき少しずつ協働の意識が高まってきている。
 ・推進員が学校と地域をつなげる役割を果たし組織的に対応できるようになった。
 ・「拓」学習が3年目となり、協働指導者として多くの地域住民がかかわり、充実した学習につながれている。
 ・地域の推進員が継続して関わることで、前年からのつながりや背景が伝わり話が通りやすくなった。
 ・卒業生である大学生が取組に参加するようになった、学園を卒業してからも主体的に地域貢献を続ける若者が地域に育ちつつある。